

令和4年度 学校評価報告書

評価の基準 A:あてはまる(100~80%) B:どちらかといえばあたはまる(79~50%) C:どちらかといえばあたはまらない(49~20%) D:あてはまらない(19~0%)

評価の基準 4(非常に良い)、3(良い)、2(もう少し)、1(改善が必要) 3, 2以上が良好であり2, 8以下は改善が必要であると考える。

項目番号	評価内容	総計(%)				4段階平均	学校の自己評価(職員・児童・保護者)				総計(%)				4段階平均	学校運営協議会委員評価 (学校関係者評価)
		A	B	C	D		分析・考察				A	B	C	D		
確かに学力の定着と向上(知)	1 ○児童は、学習した内容をよく理解している。 ☆基礎学力を向上させる指導の工夫 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	41	51	6	2	3.3	○ 92%の児童が学習内容を理解している。 ○ 教職員や保護者は、「どちらかと言えば理解している」が多いが、児童は、「理解している」の方が多い。 ● 全体の8%が「どちらかと言えば理解していない。」か「理解していない。」(下学年の2%)と答えている。 ☆ タブレットの活用により理解度が深まった。	80	20	0	0	3.8	○ 理解できていない児童への対応を望む。 ○ タブレット活用により理解度が深まったとあるが、学力調査等との相関関係について調査する必要がある。 ○ 学校教育の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ☆ 理解できていない児童への個別指導等を実施する。			
	2 ○児童は、目標をもち、進んで家庭学習に取り組んでいる。 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	37	41	20	2	3.1	○ 78%が家庭学習に進んで取り組んでいると回答している。 ○ 教職員や保護者は、「どちらかと言えば取り組んでいる」が多く、児童は、「取り組んでいる」が多い。 ● 20%の児童が「どちらかと言えば取り組んでいない。」で、2%の児童が「取り組んでいない。」と答えている。 ☆約30人の家庭学習の習慣化が必要である。	40	60	0	0	3.4	○ 宿題等を課題として出しているのであれば1時間ぐらいはすぐ過ぎる。進んで学習しているとは違和感をもってしまう。 ○ 自分で進んで取り組むことで力が付くと考えられる。 ○ 家庭学習の内容の分析も必要ではないか。 ○ 高学年の自主学習も大切である。 ○ 1年生と6年生では、学習時間が違うのは当たり前である。 ○ 教職員は、どれくらいの家庭学習を妥当だと考えるのか知りたい。 ○ 低中高で調べるのもよい。 ☆ 意欲的に家庭学習に取り組めるような手立てを考える。			
	3 ○児童は、先生や友達の話を最後までしっかりと聞くことができる。 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	42	49	8	0	3.3	○ 91%が話を聞いていると回答している。 ○ 教職員や保護者は、「どちらかと言えば聞いている」が多く、児童は、「聞いている」が多い。 ● 8%の児童が「どちらかと言えば聞いていない」と答えている。 ☆ 大人と児童間でそれが生じている。	80	20	0	0	3.8	○ 聞き方をしっかりと聞く人もいれば上の空で聞いている人もいます。大人でも聞いている時間を過ごせばという安易な気持ちになることもあります。 ○ 学校の学習習慣育成の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ☆ 基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実を図る。			
	4 ○児童は、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることができている。 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	29	45	25	1	3.0	○ 74%の児童が相手に分かりやすく伝えていると回答している。 ● 教職員の60%が「どちらかと言えばできていない」と回答している。教職員と保護者や児童の回答にずれがある。 ☆ 教職員は、児童の表現力に課題をもっている。	20	60	20	0	3	○ 表現力は大切ですね。ご指導お願いします。 ○ コロナで人と触れ合わない時間が多かったので人とのコミュニケーション力が不足している。 ○ 学校の基本的な学習態度の育成の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ☆ 主体的に対話的な深い学びの実現を目指す。			
	5 ○教職員は、授業で、準備や教え方を工夫し、分かりやすく指導している。 ☆基礎学力を向上させる指導の工夫	51	42	7	1	3.4	○ 93%ができると回答している。 ○ 教職員の自己評価よりも保護者の評価の方が高い。 ● 8%ができるないと回答している。 ☆ タブレット等の活用により、授業改善が進んだ。	80	20	0	0	3.8	○ 学校の基礎学力を向上させる指導の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ○ ICT教育の導入に於いて指導等難しい面もあると思うが児童の為になる有効な活用術を広げてもらいたい。 ☆ 今後もICTを活用した授業改善を行う。			
	6 ○教職員は、日頃から、児童の学習の様子に気を付け、アドバイスをしたり励ましたりしながら、適切な指導をしている。 ☆基礎学力を向上させる指導の工夫 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	52	38	10	1	3.4	○ 90%ができると回答している。 ○ 教職員の自己評価よりも保護者の評価の方が高い。 ● 11%ができるないと回答している。 ☆ タブレットの活用により個別指導の徹底が図れるようになった。	80	20	0	0	3.8	○ 学校教育の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ☆ タブレット(キュビナ)の活用や担任以外の職員の活用など学校全体で個別指導の充実を図る。			
	7 ○保護者は、宿題や家庭学習について話合ったり、点検したりして、児童の学習状況を把握するように努めている。 ☆基本的な学習態度・学習習慣の形成及び環境の充実	33	47	20	0	3.1	○ 80%は、児童の学習状況を把握するように努めていると回答している。 ● 20%は、児童の学習状況を「どちらかと言えば把握していない」と回答している。 ☆ 「どちらかと言えば把握していない」は、教職員は、30%、保護者は、10.2%とずれがある。	80	20	0	0	3.8	○ 学校教育の成果が出ている。 ○ 教職員・保護者・児童の学習に対する意識の違いがある。 ☆ 学校保健委員会やノーメディア週間などの取組を通して学校と保護者が連携して家庭学習の充実を図る。			

令和4年度 学校評価報告書

評価の基準 A:あてはまる(100~80%) B:どちらかといえばあたはまる(79~50%) C:どちらかといえばあたはまらない(49~20%) D:あてはまらない(19~0%)

評価の基準 4(非常に良い)、3(良い)、2(もう少し)、1(改善が必要) 3, 2以上が良好であり2, 8以下は改善が必要であると考える。

項目番号	評価内容	総計(%)				4段階平均	学校の自己評価(職員・児童・保護者)				総計(%)				4段階平均	学校運営協議会委員評価 (学校関係者評価)			
		A	B	C	D		分析・考察				A	B	C	D					
生命尊重と豊かな心の教育(徳)	8 ○ 児童は、学校や地域で、友達と仲良く過ごすことができている。 ☆ 感性豊かな人権感覚の醸成及び道徳教育の充実	65	33	1	1	3.6	○ 98%が仲良く過ごしている。 ● 2%が仲良く過ごしていないと回答している。 ● 教職員は、「どちらかといえば仲良く過ごしている」が多いが保護者・児童は、「仲良く過ごしている」が多い。 ☆ 2%の児童の追跡調査が必要である。	80	20	0	0	3.8	○ その時の気分で回答していると思うがC・Dの2%はやはり気になります。 ○ 2%は、少ないが、いじめ等が隠れているおそれがある。 ○ 地域の上の子が下の子をよく面倒見ながら登校している。 ☆ 特別活動や道徳教育の充実を図り、人権感覚の醸成を図りながら望ましい人間関係づくりに取り組む。						
	9 ○ 児童は、自分から先にあいさつをすることができます。 ☆ 積極的な生徒指導	41	40	16	3	3.2	○ 81%が自分から先にあいさつしていると回答している。 ● 19%ができないないと回答している。教職員の30%が「どちらかと言えば、できない」と回答し、保護者の22.7%と下学年の児童の16.2%が「できない」と回答している。 ☆ 校内だけではなく校外でのあいさつの指導が必要である。	80	20	0	0	3.8	○ 地域や家庭も連携しての指導が必要である。 ○ 朝は、横断歩道で、下校時も会うと、元気よく挨拶してくれます。中高生もよく挨拶してくれます。元気をもらっています。昔からの庄内っ子の良き伝統です。 ☆ 伝統を継続するために基本的な生活習慣の育成のための取組(月目標や指導週間等)を充実させる。						
	10 ○ 児童は、ていねいな言葉遣いで話をしている。 ☆ 積極的な生徒指導	33	49	17	1	3.1	○ 82%が丁寧な言葉遣いで話している。 ● 教職員の70%が「どちらかと言えば話している」と回答している。教職員と保護者や児童との回答にずれがある。 ● 18%が「できない」と回答している。 ☆ 相手を大切にする第1歩として言葉遣いの指導が必要である。	80	20	0	0	3.8	○ 学校内の指導だけでなく家庭教育も重要と考えれば保護者の評価が比較的低いのが気になる。 ☆ 学校と家庭が連携して児童のよりよい言語環境の充実を図る。						
	11 ○ 児童は、自分から進んで、家族や友達のためになる仕事をすることができる。 ☆ 福祉教育・体験活動の充実及び潤いのある教育環境づくり	35	52	11	2	3.2	○ 87%が進んで家族や友達のためになる仕事をしていると回答している。 ● 13%ができないないと回答している。 ● 下学年が15.2%できていないと回答している。 ☆ 学年が上がるにつれて委員会活動やボランティア活動などできることが増えている。	80	20	0	0	3.8	○ 下学年は、何を、どうしたらよいか分からぬのでは? 上学年の行動や他の人の関わり方を見て覚えていくのではないでしょうか。 ○ 仕事とは、どんなことを仕事と思っているのだろうか仕事とは、どんなことを分からなければヤングケアラーと分からなくなる恐れがあると考えます。 ○ 家族や友達のためになる仕事がボランティアにつながり素晴らしいです。 ☆ 朝のボランティア・清掃指導・農業体験等の体験学習とキャリア教育の充実を図る。						
	12 ○ 児童は、学校や社会のきまりをしっかりと守ることができます。 ☆ 積極的な生徒指導	45	51	4	1	3.4	○ 96%がきまりを守っていると回答している。 ● 5%がきまりを守っていないと回答している。 ● 教職員と保護者は、「どちらかと言えば守っている」の割合が高いが児童は、「守っている」の割合が高い。 ☆ 児童の意識のずれを修正しながら規範意識を高揚させる必要がある。	100	0	0	0	4	○ 5%は、どのような事を守っていないのか? ○ 都会でなくとも物騒な犯罪が起っているので地域社会も子どもの安心安全に万全を期し巻き込まれないように努力する必要がある。 ☆ 生徒指導の3つの機能(自己存在感・自己決定・共感的理解)を生かした学習指導を行いながら規範意識を高揚させる必要がある。						
	13 ○ 児童は、やり始めたことには最後までねばり強く取り組むことができている。 ☆ 福祉教育・体験活動の充実及び潤いのある教育環境づくり	40	52	7	1	3.3	○ 92%が「最後まで粘り強く取り組む」と回答している。 ● 8%が「取り組んでいない」と回答している。 ● 児童は「取り組んでいる」が多いことにに対して教職員や保護者は、「どちらかと言えば取り組んでいる」の割合が高い。	80	20	0	0	3.8	☆ ボランティア活動や体験活動、清掃時間等の指導の充実を図る。						
	14 ○ 日頃から、児童の生活の様子に気を付け、話を聞いたり相談にのったりしながら、適切な指導をしている。 ☆ 積極的な生徒指導 ☆ 感性豊かな人権感覚の醸成及び道徳教育の充実	57	38	6	0	3.5	○ 95%ができていると回答している。 ● 保護者の11.4%が「どちらかと言えば感じない」と回答している。 ☆ 毎月のスマイルアンケートや日々の児童観察等により児童理解が深まった。	80	20	0	0	3.8	○ タブレットを使ったアンケートで1人1人に丁寧な教育相談を行ったことで児童の心の安定につながった。 ☆ 今後も、いじめ・不登校・問題行動等に対して、積極的な生徒指導で未然防止に努め、発生した場合は、早期発見、早期対応に努める。						
	15 ○ 保護者は、児童の言動や様子に気を配り、あいさつや言葉遣いなど指導するべきことは、しっかりと指導するように努めている。 ☆ 積極的な生徒指導 ☆ 感性豊かな人権感覚の醸成及び道徳教育の充実	31	64	6	0	3.2	○ 95%の保護者が指導すべきことを指導していると回答している。 ● 教職員は、「どちらかと言えば指導している」の方が80%が多いが保護者は、「指導している」の方が51.1%が多い。 ☆ 学校・家庭が連携しての基本的な生活習慣の育成が必要である。	80	20	0	0	3.8	○ 学校内の指導だけでなく家庭教育も重要と考えれば保護者の評価が比較的低いのが気になる。 ☆ 学校と家庭が連携して児童のよりよい言語環境や規範意識、基本的な生活習慣の育成に取り組む必要がある。						

令和4年度 学校評価報告書

評価の基準 A:あてはまる(100~80%) B:どちらかといえばあたはまる(79~50%) C:どちらかといえばあたはまらない(49~20%) D:あてはまらない(19~0%)

評価の基準 4(非常に良い)、3(良い)、2(もう少し)、1(改善が必要) 3, 2以上が良好であり2. 8以下は改善が必要であると考える。